

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

第9回 三池照鳳

三池照鳳という人

三池照鳳は、嘉永元(1848)年8月18日、埴生郡成田村(現在の仲町)に父半兵衛の長男として生まれた。

安政4(1857)年、9歳で成田山新勝寺に入り、中興第11世貫首しょうがくの下で得度した。翌年12月に海上郡(現在の旭市)の幸蔵寺で修行し、文久2(1862)年から明治13(1880)年まで、京都の智積院において18年間にわたる研学修行に励んだ。修行と並行して明治元年には、八田村(現在の山武市)長福寺の住職となり、同3年から新勝寺貫首になるまでの間、東京深川(現在の東京都江東区)の成田山不動堂の受け持ち人代理を務めた。また、同6年には、原村(現在の埼玉県川口市)の密蔵院住職に転じた。

第14世新勝寺貫首となる

明治13年、照鳳は新勝寺副住職となり、同16年1月29日、34歳で第14世新勝寺貫首となった。翌年の3月28日から43日間にわたり、宗祖弘法大師の1050年遠忌を記念して、本尊と寺宝の開帳を修めた。また、同18年4月15日から50日間、深川不動堂において、東京出開帳を行い、同21年には寺内の諸



上／明治初期の成田山新勝寺開帳風景(『成田の歴史アルバム』より)

下／三池照鳳碑(場所：成田山公園内)



嘉永元年～明治29年(1848～1896)

埴生郡成田村(現在の仲町)に生まれる。9歳で成田山新勝寺に入り、34歳の若さで第14世新勝寺貫首となる。下総鉄道の敷設に大きく貢献した。教育事業にも熱心で成田英漢義塾(現在の成田高校)を設立し、千葉寺内にあった矯正教護施設を成田山感化院(現在の成田学園)として開院した。



堂の修復再興を進め、大師堂、内仏殿、^{だきに}吒枳尼天堂などが整備された。また、寺域の拡張を計画し、県に働きかけて新勝寺裏山の官有林の払い下げに成功した。この件で、政治的手腕を遺憾なく発揮した照鳳は、千葉県知事の船越衛、石田英吉らと親交を結んだ。

また、町の住民に対しても、絶えず心を捉え、信望を得ていた。特に教育事業に熱心で、有能な人材を世に送り出すことに貢献した。明治20年10月、地元の中高等教育機関として、成田英漢義塾を設立した。成田英漢義塾は後に成田中学校に改称され、現在は成田高校となっている。さらに、同21年4月には、千葉感化院の経営を新勝寺が単独で受け持つことになった。同院は元々、千葉県内の仏教各宗寺院の共同経営による社会事業として、県知事を総長に千葉町(現在の千葉市)の千葉寺内に創立されたものであった。しかし、維持運営が困難となり、新勝寺が進んでその経営を引き受けた。これにより、後の成田山感化院(現在の成田学園)の基礎が築かれた。

また、成田町の発展と参詣者の利便のために鉄道敷設を熱心に唱え、明治26年7月、自ら発起人総代となって、下総鉄道会社を設立した。

同27年、病气により退隠し、同29年6月3日、49歳で遷化せんげした。後に権大僧正、次いで大僧正を追贈された。

参考：『成田不動の歴史』

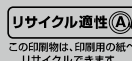
編集後記

多くの尊い命が失われた「東日本大震災」から7年が経ちました。あの日、私は市役所にいました。感じたことのない強い揺れに、恐怖を覚えたことを今でも思い出します。夏目漱石の門下で、物理学者・寺田寅彦の言葉に「天災は忘れた頃にやってくる」があります。皆さんも、あの悲惨な出来事を忘れていたのではないと思いますが、懐中電灯や非常食・保存水・常備薬などの非常持ち出し品を今一度確認しませんか。

平成30年3月15日号 No.1359

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。